

製品名: CD137 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08206**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	27kDa

抗原情報

遺伝子名	TNFRSF9
別名	TNFRSF9; CD137; ILA; Tumor necrosis factor receptor superfamily member 9; 4-1BB ligand receptor; CDw137; T-cell antigen 4-1BB homolog; T-cell antigen ILA; CD antigen CD137
遺伝子 ID	3604.0
SwissProt ID	Q07011
免疫原	抗血清はヒト TNFRSF9 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

背景

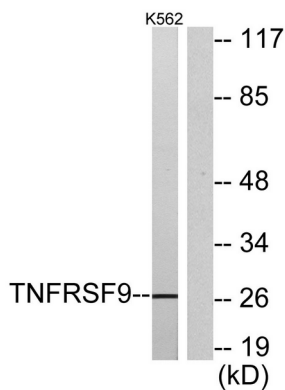
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、TNF 受容体スーパーファミリーのメンバーです。この受容体は、T細胞のクローン増

殖、生存、および発達に寄与します。また、末梢単球の増殖を誘導し、TCR/CD3による活性化によって誘導されるT細胞のアポトーシスを促進し、CD28の共刺激を調節してTh1細胞応答を促進します。この受容体の発現は、リンパ球の活性化によって誘導されます。TRAFアダプタータンパク質はこの受容体に結合し、NF- κ Bの活性化につながるシグナルを伝達することが示されています。[RefSeq提供、2008年7月],機能: TNFSF14/4-1BBLの受容体。T細胞活性化時に活性化する可能性がある。類似性: 4つのTNFR-Cysリピートを含む。サブユニット: TRAF1、TRAF2、およびTRAF3と相互作用する。LRRリピートタンパク質1/LRR-1と相互作用します。組織特異性: 活性化T細胞の表面に発現します。、

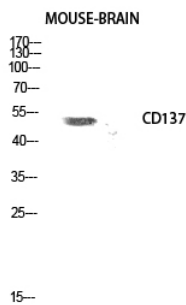
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;

画像データ



TNFRSF9抗体を用いたK562細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーン合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 500に希釈したCD137ポリクローナル抗体を用いたマウス脳細胞のウェスタンブロット解析